

プロジェクト名称

博物館と連携した学校史料を用いた地域教材開発プロジェクト

—和歌山歴史検定の実施 本日図書館にて開催中—

研究代表・海津 一朗

大学連携教員：吉村旭輝・稲生淳・山神達也・岡崎裕

趣旨

STF 学習（主体・対話・深い）の呼び声に対して、社会科教育においては学校史料の活用による教材開発が注目されている。和歌山県教育委員会のなかにも（主に考古・民俗の博物館学芸員のサイドから）学校史料館を待望する主張がある（「学校のたからもの展」ⅠⅡ開催）。教員・学芸員（教委）・大学スタッフの 3 者の連携によってモデルを作ることにより全県的・全近畿的な STF 学習運動を広げたいと考えた。

現在、12 学校・20 名の教員とすすめている事業は以下の通り。以前城東中学連携「太田城水攻め授業」モデルにして、海津ゼミ生＝若手教員による共同研究という態勢を布いた。

① 和歌山歴史検定＝紀伊半島世界史研究の企画出版「紀伊半島から考える日本史」と博物館連携展示

和歌山大学附属中学校 山口康平 50

笠田高校 林 晃平 60

智辯学園和歌山中学・高等学校 塩崎 誠院

熊野高校 田城賢司

★とりまとめ 稲生 淳（紀伊半島世界史研究会会長）

② 副読本『わたしたちの堺』批判の再検討 「消えたスケザエモン像をさがせ！」

岸和田市立岸城中学校 脇田剛毅 60

堺市立福泉南中学校 永野康平院（オブザーバー）・神戸大学 綿貫友子（オブザーバー）

★担当学生 曾我部翔馬 69（岸和田市）

③ 田辺高校学校史料調査・由良ふるさと伝承館調査 本日基調講演

前出 田城賢司

田辺高校 桑原広弥（オブザーバー）・田辺中学校 渡口洋輔 59（オブザーバー）

田辺工業高校 渡辺翔太 66（オブザーバー）・★担当学生 岡本萌依 68（田辺市）

④ 学校史料レプリカの授業活用

桐蔭中学校 鈴木達也

バーフォード 土橋進（オブザーバー）

★担当学生 山村恭平 67

⑤ 学校史料の調査および教材活用

・池田小学校 矢野朋希院（自校調査中）

・和歌山北高校 山入桂吾院（自校調査中）

・美里中学校 和田直也 64（自校調査中）

・新宮市緑ヶ丘中学校 中瀬古友夫（南紀熊野サテライト・講師 紀南の学校資料について聞き取り中）

・和歌山大学南紀熊野サテライト CD 亀井晴史（オブザーバー 附属小学校画像史料の調査）

⑥ 和歌山市社会科教員研究会との連携実践（準備中）

東和中学校 下地浩平

前出 鈴木達也

★担当学生 小林真侑 68（東和中スクールボランティア）

①課題のグループにより、『紀伊半島から考える日本史』（企画出版）の準備が整い、和歌山大学博物館機構（紀州経済史文化史研究所）と連携して、同名の企画展を実施した。特に、第一コーナーは本プロジェクトが責任担当して、学校教員を対象とする「わかやま歴史検定・教科書準拠編」を設営した（2020年1月10日～2月27日）。展示の責任者は本プロジェクトの海津一朗（代表）・吉村旭輝・日本史概説2019岡公園研究班。

次頁以下はその正解解答編である。

紀伊半島が語る日本史・教科書（和歌山歴史検定）編 解答

口上 和歌山歴史検定につきまして

紀伊半島世界史研究会編『世界史とつながる日本史—紀伊半島からの視座』ミネルヴァ書院刊では、紀伊半島の地域史がアジア海域・太平洋の変革を推進する事例を描きました。プロジェクト教員の指導を得て、教育学部の教員志望の学生とともに、教科書の単元（テーマ）に関わる地域史の材料を探す作業をくりかえしました。地域に即して歴史を考えることで、紀伊半島の役割の意外な大きさに気づくことになる。それは、教科書の歴史は中央の別世界のものと考えがちな学生にとって、驚きの発見だったようです。

ここ（展示室パネル）では、キャプションとして教科書の単元名だけを付けました。①この場所がどこか（すべて紀伊半島です）、②どうしてこの教科書テーマと関わるのか（授業の冒頭7分をこの場所の小話で導入せよ、と指導）、教室のなかから考えた「和歌山歴史検定」ですのでどうぞチャレンジしてください。難問ばかりです。以下は正解回答例、文中『世界史とつながる日本史』は『MINE』と略称します。

順番（キャプション） 解答 （ 在 所 ）

1 文明のなりたち 徐福廟（新宮市徐福 新宮駅前）

日本列島の文明化は、中国大陸からの渡来人により推進された。そのイメージ作りに不老不死を求めて渡来し文明をもたらした徐福（秦の始皇帝使節）を使おう。日本各地に徐福渡来伝説はあるが、新宮市のものほど具体的なものはない。徐福が寧波から出帆したこと、童男童女 3000 名を引き連れて農耕を伝えたこと、中国では神武天皇東征とみなされていることなど強調したい（『MINE』1章参照）。徐福の来た BC 2 世紀は弥生時代成立期であり、御坊市堅田遺跡とともに教える手もある。

2 大王の時代 隅田八幡宮<人物画像鏡>境内記念碑（橋本市隅田町垂井）

隅田八幡宮に伝来した神鏡（国宝）で、現物は東京国立博物館保管。銘文に「大王」の名を刻み、「癸未」年代から継体大王の可能性もある。教科書のワカタケル鉄剣（熊本・埼玉）と並ぶ大王支配時代のシンボル。「継体天皇」は天皇家の一系継承上に論議のある王。このモニュメントは京奈和道が境内を横断した 2004 年に作成されている。篠川賢『継体天皇』吉川弘文館参照。

3 聖徳太子の政治改革 大歳神社の大掠「聖徳太子伝説」（紀の川市桃山町調月）

蘇我馬子・厩戸王（聖徳太子）連合軍が物部守屋軍と仏教導入を巡って戦争した際、調月の一帯が主戦場になったという伝承。調伏呪詛（神戦）によって掠が巨弓に変化して守屋を滅ぼしたという（『弉川系図』など）。この貴志川下流域一帯は「紀州の飛鳥地方」とよばれるほどに古代廃寺や古墳の集中する場所で、大歳神社には鎌倉時代の釣鐘・板碑・掛け仏群など逸品が集中しており、中世聖徳太子信仰の本拠地だったことがわかる。

4 大化の改新 背ノ山（かつらぎ町高田・背ノ山、道の駅万葉の里より展望）

大化の改新で樹立された飛鳥政権によって、この「紀伊兄山」が畿内の南の境<都か田舎かの境界>と定められた（改新の詔 2 条）。改新の詔は「後世の偽作」といわれるが、この畿内規程は律令制と異なるオリジナルな規定。律令制では大和と紀伊の国境・真土山が五畿と南海道の境になる。大化の改新時代の<日本列島のランドマーク>として広めたい。教科書に載る「かせだ荘絵図」にも描かれているので参照させると良い。

5 壬申の乱 「神武東征神話」那智火祭り（熊野那智大社・那智勝浦町 2017 年撮影）

内戦で権力を握った大海人皇子（天武天皇・初代「天皇」）は、万世一系の王家を演出するために記紀神話を創作する。紀伊半島は、なぜか名草戸畔・丹敷戸畔ら女性王権の反逆地域として描かれた。和歌山県観光連盟刊『紀の国の祭り』によると、この祭りの「御火行事」は、大旗・扇組が神武の大和朝廷軍で、松明組の丹敷戸畔軍を制圧するという。近年ではこの伝承は採用されず、那智火祭りも扇会式（扇祭）と称している。

6 天平文化 紀三井寺の応同樹（和歌山市紀三井寺・石段中腹の清浄水向い）

天平文化といえは753年渡来した鑑真が教科書に載るが、わずか20年後に唐僧為光が紀州に来て紀三井寺を開いたことは併せて強調すべきだろう。桜の名所として名高い紀三井寺だが、その桜も応同樹（和名クスノキ科のタブノキ=イヌクス）も為光が竜宮から伝えた7種の宝という。紀三井寺では、3年前より「千日詣り」の夜祭に、竜宮乙姫の参宮イベントを大々的に行うようになった（乙姫はコンテストで選ばれる）。なぜこんな為光伝説が作られたのかについては、『MINE』3章参照。

7 大仏建立 吉田山麓の宮子姫の像（御坊市藤田町吉田八幡神社）

東大寺大仏を作って諸国に国分寺を置いた聖武天皇。その母の宮子については、父藤原不比等が紀伊国日高川の漁師の娘を養女にしたという髪長姫伝説が広まっている（道成寺の開創縁起）。吉田八幡神社が伝承の中心地。気の強い光明皇后のもとで不安定な性格だったという聖武は、娘（のち孝徳）とともに何度も紀州を訪れていた。髪長姫の像は御坊駅ロータリーにもある（「明日へ」岩井珠恵作）。髪長姫のイメージという難問。

8 女帝時代 和歌浦（和歌山市）

持統、元明、元正、孝謙・称徳と8代に5人女帝を出した奈良時代はまさに女帝の時代だった。壬申の乱で成立した天武の王統は、紀伊半島とつながりが深い（5・7）。女性王は紀州の伝統かもしれない。孝謙を最後にしてこのような女帝の時代は姿を消す。和歌浦は、「最後の女帝」孝謙が法王道鏡と行幸した場所と伝承する。

9 律令制 日前宮～神前駅の貴志川線「車路」（和歌山市 津秦天神付近より）

律令制度の庶民の負担は、和歌山県立博物館の古代史常設展示が秀逸だろう。租庸調・雑役といっても実感わかないが、あの「納めるべき実物」見せられたら時代の空気を吸い込む。写真の線路は、最近の研究で「車路」と呼ばれた道とわかった。「車」は牛車。こんな呼称は都の朱雀大路などほんの一部にしかない。律令の地域作りに懸ける紀州政治家の意欲には目を見張るものがある。日前国懸宮から南にのびる「車路」を基準線にして、紀州の条里制の方位が作られた。貴志川線線路が車路を踏襲したというのも面白い。

（中世）

10 国風文化 阿育王山舍利殿（中国・寧波）の仏舍利（山川均団長・寧波調査団にて2018年撮影）

中世の時代、知と物とは寧波（明州）からやってくる。とくに紀伊半島はそのつながりが強いので、つねに世界の最先端を走った。高野山の重源は、日本から材木を輸出して、寧波の阿育王山に舍利殿を建てた。東大寺大仏を再建して中世の世を開いた僧侶として著名なあの重源である。公的な遣使が途絶えて「国風文化」などともいわれたが、実際には紀州を中心とする寧波への渡航僧の民間貿易によって中世社会が始まった。『MINE』4・6・9・10章ほか参照。

11 武士の成長 西行像 龍門山遠望（紀ノ川市打田）

この像が建つ紀ノ川ほとりは、中世の田中荘と荒川荘の境界部。武士団が領土争いを繰り返した。なかでも田中荘の佐藤一族は「悪党」といわれるほど勇猛であった。西行は、この佐藤氏の一流で北面武士であり（俗名義清）、それが縁でこの田中荘故地に誘致された。高野山の勸進聖（金集め旅僧）として、武士団と寺社勢力（荘園領主）を連携するパイプの役目を果たした。高野山壇上伽藍にある西行桜も関係遺跡として使える。

12 鎌倉幕府の成立 源義経主従の供養塔（海南市 日限地藏浄土寺境内）

鈴木屋敷・藤白神社・熊野一の鳥居跡など重要史跡の集中している熊野古道・藤白坂からは悲劇のヒーロー義経源義経の墓を。庶民信仰の中心日限地藏では、鈴木三郎重家（右）・亀井六郎重清（左）と伝承する自然石層塔の優品が見られる（同じものが藤白神社境内にも）。義経のものは真ん中の小ぶりの塔（左は複製品）。義経が紀州で兵隊（水軍）を徴兵したことは歴史的事実である。鬪鶏神社の神占いや弁慶の熊野水軍も教えたい。

13 鎌倉仏教 明恵八所遺跡塔「星尾遺跡」(有田市星尾)

教科書では法然・親鸞・日蓮・道元の「新仏教」を教える傾向が強い。実際には、重源・明恵・覚心(法灯国師)ら旧仏教改革派諸宗が地域振興を主導していた。紀州ではこの人々が寧波との交流をすすめて活躍する。明恵の弟子喜海は師の事績を伝えるために名所8か所を選定して明恵遺跡と称した。これが記念物を「遺跡」と称する早い例であり、残存遺物として初例となる(1236年木製、1344年に現在の石塔として再建)。

14 承久の乱 興国寺天狗堂 (由良町門前)

幕府と一戦を構えて敗亡・流刑となった後鳥羽上皇は、無念のあまり天狗となって魔界を支配したという。由良の興国寺には、後鳥羽の墓と天狗堂が作られている。天狗は、上州赤城山の天狗と契約したものと伝承しているが、後鳥羽上皇の怨霊をベースにしている。この寺は源実朝ゆかりの寺であるので、承久の乱を、後鳥羽上皇と実朝という特異な人物・個性とあわせ考えて実感させたい。『MINE』4章参照。

15 地頭の横暴 杉野原の御田舞(有田川町杉野原 雨錫寺阿弥陀堂)

百姓たちが一味団結して地頭湯浅氏を弾劾訴訟したことで知られる阿テ河荘故地は、旧清水町(現有田川町内)にほぼ一致する。年に一度、予祝の行事として実施される御田の舞だが、この杉野原地区は旧阿テ河荘上村の中心で、逃散など激しい戦いが行なわれた舞台と思われる。踊りのはじまる前座に裸形の大人衆が乱舞する「裸苗押し」の熱気は、阿テ河荘民衆の空気を伝えるものであったが、2018年の奉納で最終回を迎えた。2020年の最後の大学センター試験「日本史B」にも出題された。

16 モンゴルの襲来 高野山参詣道「町石道」159町石(かつらぎ町天引山)

文永~弘安のモンゴルとの戦いの最中に石造塔婆180本余が計画・実現した参詣道。写真のような6メートルの巨大石柱が、1町(約100メートル)ごとに建てられた。それぞれに寄進者の名前が刻まれるが、上は天皇・執権・関白から下は名も伝わらない「十方施主」まで(写真は159町石の安達泰盛塔)。国際人である空海の靈験にすぎあって、一致団結してモンゴル帝国を倒すための施策だった。塔の下には、異国調伏の呪詛を記した経石が埋まっていた。『MINE』7章参照。

17 悪党 最初ヶ峯古戦場(紀の川市百合山)

モンゴル襲来以後、幕府に反逆する勢力が多く出現した。なかでも、荒川荘悪党の源為時一党は全国的にも有名で、とうとう鎌倉幕府が遠征軍を派遣して鎮圧したほどだった。將軍みずから仕掛けた聖戦ということで「永仁の紀州御合戦」とよばれる。このとき、荒川悪党は田中荘との境界部高野に逃げ込み、この最初ヶ峯からテラヤマにかけて籠城戦争を行なって敗れ去った。河内悪党楠木正成とならんで有名な荒川悪党為時をぜひとも取り上げたい。『きのくに荘園の世界』上の荒川荘参照。

18 鎌倉幕府滅亡 千里の浜(みなべ町山内)

千里の浜のあった中世南部荘は、鎌倉幕府の畿内支配の拠点(紀伊守護所)であった。守護・地頭には三浦氏・北条氏など最有力御家人が任命された。ところが元弘の大地震でこの地が多大な被害をうける。『太平記』巻2によれば天下怪異として千里の浜の干潟が20余町(2km)陸地化した。中世では天変地異は権力者の無能によっておこると考えられていた。幕府滅亡は誰の目にも明らかになったのである。

19 建武の新政 高野山・愛染堂の定例祈禱(高野町高野山 壇上伽藍)

愛染堂は建武政権期に後醍醐天皇が高野山改革のために建立した「小会堂」をもとにした集会場。僧侶の数をあらたに200名増員して、そのために「新荘」群を寄進した(『御手印縁起』旧領の回復)。このような改革の息吹、時代の空気は、この愛染堂「8の日」朝に行われる法会に参加して感じよう。秘仏で吉祥宝来に隠されているが、後醍醐天皇を写したという等身大の愛染明王にまじかに仕えることが許される。

20 南北朝の動乱 龍門山合戦古戦場 塩谷伊勢守戦死の地（紀ノ川市桃山町市場）

天皇家が分裂して60年余も抗争するという南北朝の戦いは日本史上最大の内戦と言える。紀伊半島では南朝の勢力が強く、海賊・山賊などが南朝を支えたという学説の根拠にされている。紀州最大の合戦は、この龍門山合戦だろう。足利尊氏の北朝軍は和佐山に布陣し、後村上天皇の南朝軍は最初峯～龍門山に追い詰められた。昔荒川悪党が闘った龍門山である（17）。この戦が重要なのは、足利方に畠山国清が、関東の武士団を大挙引率して攻込んだためだ。関東武士の塩谷氏が討死した場所は、龍門山・和佐山の双方が遠望できる激戦地（写真の山はどちらだかわかるだろうか？）

21 応仁の乱 塔下王子の宝篋印塔（海南市藤白・塔下）

呉座勇一著『応仁の乱』によって、畠山義就こそ大乱の首謀者とされ、紀州は乱の発祥地として注目された。有田郡一帯の国衆が団結して南朝皇子某を擁立して（これが教科書の「国人一揆」）、藤白城に攻め込んできたという。熊野古道の藤白峠にある地藏峯寺・塔下王子社（写真は名前の由来となった宝篋印塔）は応仁の乱の貴重な目撃者だったはずだ。さて、熊野古道最大の難所の藤白坂、はたしてこの塔を実見できるか。

（近世）

22 秀吉の天下統一 太田左近像（和歌山市太田 JR 和歌山駅南口ロータリー内）

紀州は国一揆を作って海外の倭寇から支援されて（紀州惣国の時代）、秀吉の天下統一に最後まで抵抗した。秀吉の怒りはすさまじく、1585年太田の集落を水没させるという水攻め作戦を実施した。モニュメントは太田城将の太田左近といわれるが、近在の家の供養墓から移設したもので中世像ではない。しかし、この地ではじめて刀狩令が発令されたこと（全国令1588の3年前）など、抵抗のシンボルと語り伝えたい。水攻め堤防（出水堤防）は2か所現存し、ちょっとわかりにくい以案内板が立つ。『MINE』9章参照。

23 朝鮮出兵 平井中央公園（和歌山市平井）

写真の風景は、戦国時代最強の鉄砲集団として名高い雑賀衆の主将鈴木孫一の本拠地平井中心部である。通称孫一道場の蓮乗寺には孫一の墓があり、いまでも住職が鈴木姓。見下ろす高台には、沙也可の案内板がたつ。沙也可は慶長の朝鮮出兵で従軍するも、秀吉に反逆して朝鮮に鉄砲技術を伝えたという謎の武将。朝鮮では金忠善として文武両道の将軍として称えられた。沙也可のような降伏者（降倭）は大勢いて、朝鮮出兵の真実を教える上で貴重だ。平井の人々は沙也可＝雑賀衆とする現代の神話を紡ぎ出している。『MINE』10章参照。

24 鎖国 李真栄・李梅溪親子「父母状」の顕彰碑（和歌山市 岡公園）

文禄の朝鮮出兵で朝鮮人捕虜として連行されてきた李真栄は、西松江や海善寺を転々のちに紀州藩に召し抱えられた。儒学者として有能だったためといわれるが、もうひとつの理由として紀州藩が朝鮮貿易を行っていたことによるものという。1619年李真栄は藩主頼宣の命で対馬に派遣されている。朝鮮貿易をになう対馬藩との関係を強化するためだった。朝鮮出兵から鎖国の実態を知る手がかり。『MINE』11章参照。

25 江戸の思想・学問 「天妃山」（和歌山市岡山丁 岡公園）

和歌山城の南の続きの丘陵（現岡公園）は、城内をみわたす軍事要衝地。緑泥片岩の石切り場もある。ここは天妃山であり、天妃すなわち中国の最高女神にして航海神の「媽祖」女神を祀っていた。御三家のひとつで儒学を重んじた紀州藩は、中国の神を郭内で信仰した。山頂にあったはずの天妃祠は今はない。弁財天女に読み替えられて麓に移されている。

26 江戸の産業 橋本神社の橘古木（海南市下津町加茂）

菓子といえば昔は橘（みかんの原種）、その発祥地が中世加茂郷橋本の「六本樹の丘」（橋本神社旧社地）である。毎年4月に全国から老舗菓子業者（全国銘菓奉獻祭）が、10月には県内外の柑橘・果物業者（みかん祭）が参集する。垂仁天皇の命で不老長寿の霊菓を求めて常世国に派遣された田道間守が苦難の果てにこの地

に持ち帰ったという、徐福の日本版の記紀神話。紀州を代表する産業、由来も含めて喧伝する手法に紀州藩はどこまでかかわっているのだろう。ちなみに紀伊国屋文左衛門は材木商として江戸経済を左右したが、なぜかみかん船伝説が有名になっている。発祥の地の橋実をもつのは峰岸純夫氏。

27 享保改革 徳川吉宗像（和歌山市吹上 和歌山大学附属小中学校正門前）

大河ドラマ吉宗ののちに和歌山市の顔として建てられた吉宗像。近くに産湯の地の石碑もある（和歌山大学附属中学校裏門道沿い）。8代将軍吉宗以後の江戸幕府は紀州徳川家の血筋で独占されて、最後の将軍慶喜以外は紀州将軍。したがって3大改革期の治世には紀州の責任が大きい。密偵組織や増税など悪いことばかりなので、ひとつだけ。江戸の公園（公共地）政策をすすめたのは吉宗といわれる。和歌浦パブリックガーデン応用。

28 国学・洋学 伊太祁曾神社境内 磐座（和歌山市伊太祈曾）

幕末維新时期には新たな学問・思想が台頭した。紀州では国学振興により中世以来の伝統文化の破壊が進んだ。根来勢力の再開発によって栄えた山東荘伊太祈曾神社でも、徹底的な破壊によって中世神仏習合時代の景観は残されていない。中世に祭神だった手力男命は否定されて、建国神話にもとづき木の神（五十猛命）に替えられた。磐座の創作もそのひとつ。ただ二の鳥居前の横穴式古墳は「岩戸」と呼ばれて（『紀伊名所図会』）中世の手力男時代のなごりを伝えている。華岡青洲の麻酔医術など蘭学（西洋医学）導入よりインパクトが大きい。

（近代）

29 開国 レディワシントン号レリーフ（串本町串本 串本駅前ロータリー）

ペリー黒船の来航は1853年だが、紀州串本には一足早く1791年にアメリカ船2隻レディワシントン号、グレース号2隻がやってきた。建国直後で、ファーストレディ・マーサの名を冠しているためか前者ばかりが取り上げられる。最近、グレース号の航海日誌が解読されて、投錨の位置（大島村と橋杭岩の間）や日米住民交流について詳しくわかってきた。草創期のアメリカの経済政策についてもわかる。『MINE』13章参照。

30 西郷隆盛 明治四役の戦勝記念碑（和歌山市 岡公園）

佐賀の乱・台湾出兵・神風連の乱・西南戦争に出征した和歌山県人の戦没者慰霊碑。明治維新に反対する不平士族等の反乱に対して、政府軍による鎮圧を賛美した記念碑（1883年に和歌山県令・旧藩主徳川茂承が発注）。1875台湾への対外戦争や、1876西郷隆盛との西南戦争においても、紀州人が政府軍として戦ったことを顕彰した。もと御三家の徳川方だった紀州は、明治政府に忠義を尽くしたことを宣伝する必要があったのだろう。

31 大日本帝国憲法 大島樫野崎沖エルツールル号沈没地（串本町大島樫野）

1989年2月に憲法を發布するや、遠くトルコ（オスマン朝）から親善の使節団600余人をのせた軍艦エルツールル号が出港、翌1890年に来日した。アジア初の立憲国家トルコにとって、新生日本は頼りになるパートナーになるはずだった。だが当時の日本は欧米列強の仲間入りを目指しており、トルコ同盟に応ずることはなかった。エルツールル号は大島樫野崎沖の「船甲羅」で座礁沈没してしまう。『MINE』17章参照。

32 帝国主義 陸奥宗光像（和歌山市 岡公園）

欧米列強国家に伍する地位を確立しようと尽力した政治家・外交官の陸奥宗光は和歌山紀州藩の出身。31のトルコ軍艦の沈没事件が起こっていた当時は、イギリスと軍事同盟を締結して不平等条約の改正を実現して日清戦争を主導した。軍事戦略による条約改正は、その後の大日本帝国の侵略路線＝帝国主義の基調になった。この像は明治政府を称える人々による明治100年記念事業で1971年に作られた。『MINE』18章参照。

33 日清戦争 征清記念標（和歌山市 岡公園） *展示ポスター写真に使用（吉村旭輝デザイン）

清国を征伐した戦勝記念碑で戦争講和直後の1895年12月に建てられた。30と同様に、紀州人が勇敢に戦ったことを宣伝して戦意高揚のプロパガンダとした。このモニュメントが建てられたのが見晴らしの良い岡公

園の山頂だったことにも注意しよう。ここは江戸時代、中国聖地の「天妃山」だったからだ（25）。近世と近代の中国観の変化を教えることができる。

34 自由民権 共修学舎・本多和一郎顕彰碑（紀の川市北大井集会所境内）

中世以来自由の気風を伝える紀州では、自由民権運動も海外に開かれた移民派遣の奨励として広まった。本場の民主主義と世界情勢を学ぼうという運動だ。この中心となったのが、本多和一郎の私塾「共修学舎」である。和一郎は慶応義塾で福沢諭吉の教えを受けて帰国し、根来寺に共修学舎を設けてアメリカ渡航を斡旋した。

35 条約改正 エルトゥールル号遭難者慰霊碑（串本町大島樫野崎）

陸奥宗光・小村寿太郎による不平等条約の改正（列強国への仲間入り）は、同時に朝鮮・中国等アジア諸国への不平等条約強制にもつながった。紀州に関係深いトルコは、このような日本の対応に強く抵抗したため、日本側は1929年にエルトゥールル号事件の慰霊祭を挙げることに伴ってトルコ政府の懐柔を図った。翌1930年に日土通商航海条約が締結された。現在の碑は1937年再建、1929年塔は右側に遷されている。

36 革命 ケマル・アタテュルク像（串本町大島樫野崎）

トルコ建国の父とよばれる初代大統領ケマル。第一次世界大戦ののち、列強支配に抵抗して、政教分離や女性解放など近代化を進めてトルコ革命を行なった。エルトゥールル号事件で遭遇して以後、革命を選んだトルコ共和国と、帝国主義を選んだ大日本帝国と、ふたつの国家は全く異なる歩みをみせた。トルコ共和国との比較検討によって日本近代の位相を明らかにすることができる。彫像は1996年に送られ2010年に和歌山にきた。

37 大逆事件 白菊浜剣岩現況（那智勝浦町宇久井）

かつらぎ町教良寺出身の歴史家西岡虎之助がただ一枚残した風景画がこの剣岩であった。進歩的な研究者だった虎之助は、思想弾圧の冤罪事件である大逆事件の起こった新宮の地を訪れたいと考えたと推測される。東京大学に移って実証主義の近代歴史学を確立した虎之助は、アジア太平洋戦争下の言論弾圧にも屈せず、敗戦後の歴史学・歴史教育を立て直した救世主となった。研究者の自覚意識を覚醒させた記念碑的な場所と言える。

38 太平洋戦争 ケシ栽培・アヘン抽出道具展示（由良町 由良ふるさと伝承館）

アジア太平洋戦争下、和歌山県有田・日高一帯ではケシ栽培が奨励され、1928年以後全国生産量第一位となった。ケシを原料とするアヘン・モルヒネは、常習性のある中毒症状を出す麻薬として日本の対外侵略政策に重用された。由良の学校博物館（白崎中学校）には、ケシ栽培・アヘン抽出の諸道具が保存・展示されている。日本のアヘン政策を明らかにすることのできる貴重な証拠史料である。『MINE』20章詳述。

39 日中友好 日中平和友好条約の碑（和歌山市紀三井寺）

1972年の日中共同声明（田中角栄首相・周恩来首相）をへて1978年日中平和友好条約が締結された。1931年から15年の長きにわたって全面戦争してきた両国がようやく国交を樹立した。この時、記念すべき友好の地に選ばれたのは紀三井寺だった。唐僧為光によって作られた紀三井寺こそ、日本と中国の懸け橋となる「物語」だったのである。碑の位置は釣鐘の脇である。奥まっけていて少しわかりづらい。『MINE』3章参照。

（未来）

40 日韓日朝友好 沙也可の碑（和歌山市紀州東照宮参道）

未来の創造に向けて。韓国・朝鮮との友好を考える和歌山県人は、沙也可を紀州人と考えることで、歴史を友好の糸口にしようとした。沙也可については23参照。供養碑は、朝鮮に書院を構えた儒学者にちなんで、儒教を重んじた紀州徳川家の廟所に置いた。沙也可の書院には、韓日友好記念館が併設されて2階部分は和歌山県コーナーとなっている。

出題パネル (優品モノ史料より史跡等景観・不動産を優先した トータル地域主義の文化財保護のため)

問い1 ここはどこでしょうか (10 以外はすべて紀伊半島です)

問い2 どのようにタイトルと関係付けますか (授業冒頭7分間地域史スタート運動)



1 文明のなりたち



2 大王の時代



3 聖徳太子



4 大化の改新



5 壬申の乱



7 大仏建立



8 女帝時代



9 律令制



6 天平文化



10 国風文化



11 武士の成長



12 鎌倉幕府



13 鎌倉文化



14 承久の乱



15 地頭の横暴



16 モンゴル襲来



17 悪党



18 鎌倉幕府滅亡



19 建武の新政



20 南北朝争乱



21 応仁の乱



24 鎖国



25 江戸の思想



26 江戸の産業



27 享保改革



28 国学・洋学



29 開国



30 西郷隆盛



31 大日本帝国憲法



32 帝国主義



33 日清戦争

(岡公園と串本大島は 2019 年日本史概説の重点分析地域につき探究学習をくりかえした)



34 自由民権



35 条約改正



36 革命



37 大逆事件 ヒント
人は虎之助岩とよぶ



18 アジア太平洋戦争



39 日中国交回復



40 日韓日朝友好